和泉葛城山の昆虫（2009 年度調査）

岩崎 拓（貝塚市立自然遊学館）

はじめに

天然のブナ林を有する和泉葛城山の山頂付近は、特色のある昆虫相が形成され（黒子、1997、1998、2000、2001、2002；保田ほか、2003；松下、2009、など）、貝塚市全体の昆虫相の豊かさに大きく貢献している。蛾類の調査を報告した黒子（2000）では、「和泉葛城山の蛾は温帯低山地の種を主体とするが、山地性の種、ブナ類に依存する種も含まれ、さらに林縁部の草地で発生したものや和歌山県側の草原から侵入したものも含まれる」と述べられている。ちなみにブナ類に依存する種として、エゾカギバ、シロテントビスジエダシャク、ブナアオシャチホコ、シロシャチホコ、ヒメシロドクガがあげられている。

この地域の昆虫相が温暖化によりどのような影響を受けるのかを記録にとどめるため、2008 年度に予備的な調査を行った（岩崎、2009）。2008 年 7 月から 10 月にかけて計 4 回の調査を行い、10 目 60 科 161 種の昆虫を確認した。その中には、大阪府レッドデータブック（大阪府、2000）で準絶滅危惧に指定されているエゾゼミ、テングオオヨコバイ、オニクワガタが含まれている。これらの他にも、山地性の種として、アシグロツユムシ、テングアワフキ、オオトビサシガメ、トゲカメムシ、ツマジロカメムシ、ツノアオカメムシ、トホシカメムシなどを確認した。また、和歌山県側の草原に由来すると思われる「平地の草原でも見られる普通種」も多く確認された。

今年度も昆虫相全般を対象にした調査を継続し、4 月から 12 月まで毎月 1 回、現地調査を行った。なお、調査の簡単な速報は、自然遊学館が年 4 回発行する自然遊学館だよりの No. 52～54 で公表されている。

調査方法

2009 年 4 月 30 日、5 月 19 日、6 月 11 日、7 月 9 日、8 月 13 日、9 月 9 日、10 月 13 日、11 月 5 日、12 月 1 日の計 9 回、雨でない日を選んで、調査を行った。和泉葛城山山頂付近（標高 820～858m：MC51354314-15：図 1）を約 3 時間かけて歩き回り、目視による任意採集を行った。目視で同定可能な種は記録するか写真撮影に留め、貝塚市立自然遊学館に標本のない種および近年に記録のない種を採集し、当館の所蔵標本とした。

図 1. 山頂付近のブナ林 2009. 4. 30

結果および考察

4 月から 12 月にかけての計 9 回の調査で確認した昆虫は 14 目 100 科 263 種であった（表 1）。目ごとの種数は、トンボ目 3 種、カワゲラ目 1 種、バッタ目 23 種、カマキリ目 1 種、ナナフシ目 2 種、ゴキブリ目 1 種、チャタテムシ目 2 種、カメムシ目 56 種、アミメカゲロウ目 2 種、コウチュ

ウ目 64 種、シリアゲムシ目 3 種、ハエ目 34 種、チョウ目 30 種、ハチ目 41 種であった。以下、主な目の結果について、簡単な解説を行った。

バッタ目

8 月 13 日に大阪府レッドデータブックで準絶滅危惧に指定されているヒトコブササキリモドキが確認された。11 月 5 日に採集されたクチキウマ属の一種の幼虫は、同定のために飼育を行ったが、成虫にすることは出来なかった(図 2)。ヒメクサキリは 2008 年の調査で初めて確認された種だが、今回の調査でも 10 月 13 日に確認された（図 3)。

ナナフシ目

ニホントビナナフシの幼虫が 8 月 13 日に、成虫が 9 月 9 日に確認された。自然遊学館には 1992 年以来の標本が 6 個体所蔵されているが、いずれも産地は和泉葛城山山頂付近である。

ゴキブリ目

キスジゴキブリの幼虫が 4 月 30 日に 3 個体採集され、20－25℃の室温で飼育した結果、5 月 25 日に 1♂1♀、5 月 26 日に 1♀が羽化した（図 4)。自然遊学館の所蔵標本の産地は、和泉葛城山山頂付近のほか、馬場、木積－蕎原（府立少年自然の家）である。

カメムシ目

大阪府レッドデータブックの指定種では、準絶滅危惧のエゾゼミの鳴き声が 8 月 13 日と 9 月 9 日に確認された。当館の所蔵個体数は少ないが、毎年、鳴き声は確認されている。2008 年に確認された準絶滅危惧のテングオオヨコバイは、今回の調査では確認されなかった。山地性の種として、2008 年と同じく、オオトビサシガメ、トゲカメムシ、ツマジロカメムシ、ツノアオカメムシ、トホシカメムシが確認され、さらにミヤマカメムシも今回の調査で確認された。

コウチュウ目

大阪府レッドデータブックの指定種では、準絶滅危惧のセダカテントウダマシが 4 月 30 日と 6 月 11 日に採集された（図 5)。2008 年の調査で確認された準絶滅危惧のオニクワガタは、今回の調査では確認されなかった。その他、自然遊学館に標本がなかったクロトラカミキリの写真を掲載した（図 6：7 月 9 日採集)。

チョウ目

30 種のうち、チョウ類が 20 種で、ガ類が 10 種であった。昼間の調査のため、主として、図 7 に示したウスベニヒゲナガのような昼行性のガか、あるいは幼虫での確認に限られた。

図 2. クチキウマ属の一種
2009.11.5

図 3. ヒメクサキリ
2009.10.13

図 4. キスジゴキブリ
2009.4.30（幼虫を採集し飼育）

図 5. セダカテントウダマシ
2009.4.30

図 6. クロトラカミキリ
2009.7.9

図 7. ウスベニヒゲナガ
2009.6.11

貝塚市内で分布が和泉葛城山山頂付近に限られる種として、ヒトコブササキリモドキ、ニホントビナナフシ、エゾゼミ、ミヤマアワフキ、トホシカメムシ、ツマジロカメムシなどが確認された。しかしながら、蕎原など近木川上流域にまで対象を広げても、分布がそこまでに限られる種は、どちらかと言えば少なく、多くは「平地の草原でも見られる普通種」で占められていた。それは、和歌山県側の開けた草原に由来するもののあるし、舗装された林道に沿って平地の草原と変わらない植物（セイタカアワダチソウ、ヨモギ、アレチマツヨイグサ、など）が生えていることも原因であると考えられる。

府県境の稜線に沿って開かれた林道沿いから大阪府側のブナ林に入ると、植生の違いばかりでなく、気温の違いが体感される。山頂付近にだけ生息する昆虫は、山頂付近に分布する植物に依存する種、および冷涼な気温に依存する種によって構成されているものと考えられる。それに加えて、平地や丘陵地の普通種も加わっているので、現在の和泉葛城山山頂付近の昆虫相は豊富（複雑）なものになっているはずである。しかしながら、温暖化の傾向が続くと冷涼な気温に依存する種が生息困難になり、山頂付近の昆虫相の衰亡を招くものと推測される。

昆虫相の変化を追跡するためには、現在の目視で確認したものを記録、あるいは採集して同定という方法では、定量的なデータが取れない可能性があり、ライトトラップ（保田ほか、2003）やピットフォールトラップ（松下、2009）などの定量的な採集法や、山頂付近に分布が限られる種の個体数推定など、他の方法も追加して行う必要があるだろう。

表1－1．和泉葛城山山頂付近において2009年4月から12月にかけて確認された昆虫のリスト1
「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認、「鳴」印は鳴き声での確認を、それぞれ示している。

目	科	種	学名	4月 30日	5月 19日	6月 11日	7月 9日	8月 13日	9月 9日	10月 13日	11月 5日	12月 1日
トンボ目	サナエトンボ科	コオニヤンマ	*Sieboldius albardae*				○					
	トンボ科	シオカラトンボ	*Orthetrum albistylum speciosum*					○				
		ウスバキトンボ	*Pantala flavescens*						○	○		
カワゲラ目	オナシカワゲラ科	*Nemoura* 属の一種	*Nemoura* sp.								○	
バッタ目	コロギス科	ハネナシコロギス	*Nippancistroger testaceus*					○	△○	△		
		コロギス	*Prosopogryllacris japonica*					○		△		
	カマドウマ科	クチキウマ属の一種	*Anoplophilus* sp.								△	
	キリギリス科	ヤブキリ	*Tettigonia orientalis*		△	△		鳴				
		キリギリス	*Gampsocleis buergeri*					鳴	鳴			
		ヒメギス	*Eobiana engelhardti subtropica*				△○		○			
		ヒメクサキリ	*Ruspolia dubia*							○		
		クビキリギス	*Euconocephalus varius*					△				
		ウマオイ属の一種	*Hexacentrus* sp.							○		
	ツユムシ科	アシグロツユムシ	*Phaneroptera nigroantennata*						○	○		
	ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	*Tettigoniopsis kongozanensis kongozanensis*					○				
	コオロギ科	モリオカメコオロギ	*Loxoblemmus sylvestris*						○	○		
	マツムシ科	カンタン	*Oecanthus longicauda*							○		
	ヒバリモドキ科	マダラスズ	*Dianemobius nigrofascatus*					鳴	鳴	鳴	鳴	鳴
		シバスズ	*Polionemobius mikado*					鳴	鳴	鳴		
		クサヒバリ	*Svistella bifasciata*						鳴	鳴		
		キアシヒバリモドキ	*Trigonidium japonicum*			○						
	バッタ科	ヤマトフキバッタ	*Parapodisma yamato*					○	○	○		
		ナキイナゴ	*Mongolotettix japonicus*				○	○				
		コバネイナゴ	*Oxya yezoensis*						○			
		ショウリョウバッタ	*Acrida cinerea*						○			
		ツマグロバッタ	*Stethophyma magister*					○	○			
		ヒロバネヒナバッタ	*Stenobothrus fumatus*					○	○	○		
カマキリ目	カマキリ科	オオカマキリ	*Tenodera aridifolia*					△				
ナナフシ目	ナナフシ科	エダナナフシ	*Phraortes illepidus*		△		△		○	○	○	
		ニホントビナナフシ	*Micadina phluctainoides*					△	○			死体
ゴキブリ目	チャバネゴキブリ科	キスジゴキブリ	*Symploce striata striata*		△							
チャタテムシ目	ケチャタテ科	キモンケチャタテ	*Caecilius oyamai*					○				
		ハグルマチャタテ	*Matsumuraiella rapiopicta*					○				
カメムシ目	セミ科	エゾゼミ	*Tibicen japonicus*					鳴	鳴			
		アブラゼミ	*Graptopsaltria nigrofuscata*					鳴				
		ニイニイゼミ	*Platypleura kaempferi*					鳴				
		ツクツクボウシ	*Meimuna opalifera*						鳴			
		ヒグラシ	*Tanna japonensis*					鳴・羽化殻				
		ハルゼミ	*Terpnosia vacua*		○鳴	鳴	鳴					
		チッチゼミ	*Cicadetta radiator*						鳴			
	アワフキムシ科	ミヤマアワフキ	*Peuceptyelus nigroscutellatus*		○	○		○			○	
		クロフアワフキ	*Sinophora submacula*			○						
		シロオビアワフキ	*Aphrophora intermedia*					○				
		ホシアワフキ	*Aphrophora stictica*							○		
	コガシラアワフキ科	コガシラアワフキ	*Euscartopsis assimilis*				○	○				
	ツノゼミ科	トビイロツノゼミ	*Machaerotypus sibiricus*	○								
	ヨコバイ科	ツマグロオオヨコバイ	*Bothrogonia ferruginea*							○		
		ブチミャクヨコバイ	*Drabescus nigrifemoratus*					○	○			
		オビヒメヨコバイ	*Naratettix zonatus*						○		○	
		カンキツヒメヨコバイ	*Apheliona ferruginea*						○			
		イグチホシヨコバイ	*Xestocephalus iguchii*	○								
		オヌキヨコバイ	*Onukia onukii*					○				
	ヒシウンカ科	ブチヒシウンカ	*Trirhacus* sp.	○	○							
		キガシラヒシウンカ	*Kuvera flaviceps*						○			
	マルウンカ科	クサビウンカ	*Sarima amagisana*						○			
	タテキジラミ科	イタドリマダラキジラミ	*Aphalara itadori*	○	○							
	キジラミ科	カエデキジラミ	*Psylla japonica*		○	○	○		○		○	
		ベニキジラミ	*Psylla coccinea*			○	○					
	アブラムシ科	イバラヒゲナガアブラムシ	*Sitobion ibarae*	○								
		ｾｲﾀｶｱﾜﾀﾞﾁｿｳﾋｹﾞﾅｶﾞｱﾌﾞﾗﾑｼ	*Uroleucon nigrotuberculatum*		○	○						
		スイカズラヒゲナガアブラムシ	*Trichosiphonaphis lonicerae*			○						
		マツヨイグサアブラムシ	*Aphis oenotherae*					○	○			
	サシガメ科	オオトビサシガメ	*Isyndus obscurus*							○		
		ヤニサシガメ	*Velinus nodipes*		△					△		
		シマサシガメ	*Sphedanolestes impressicollis*		△							
	カスミカメムシ科	ケブカカスミカメ	*Tinginotum perlatum*	○	○	○	○					
		オオチャイロカスミカメ	*Creontiades tricolor*					○				
		Apolygus 属の一種	*Apolygus* sp.					○				
	グンバイムシ科	アワダチソウグンバイ	*Corythucha marmorata*			○						
	ツノカメムシ科	セアカツノカメムシ	*Acanthosoma denticaudum*			○			○	○	○	
		モンキツノカメムシ	*Sastragala scutellata*		○					○	○	
		エサキモンキツノカメムシ	*Sastragala esakii*								○	
		ヒメハサミツノカメムシ	*Acanthosoma forficula*						○		○	
		ベニモンツノカメムシ	*Elasmostethus humeralis*							○	○	
	カメムシ科	トゲカメムシ	*Carbula humerigera*				○					
		ツノアオカメムシ	*Pentatoma japonica*				△					
		ミヤマカメムシ	*Hermolaus amurensis*							○		
		ツマジロカメムシ	*Menida violacea*								○	
		トホシカメムシ	*Lelia decempunctata*	○							○	
		シモフリクチブトカメムシ	*Eocanthecona japonicola*					○		○		
		チャバネアオカメムシ	*Plautia crossota stali*							○		
	クヌギカメムシ科	ナシカメムシ	*Urochela luteovaria*				○					
	ナガカメムシ科	コバネヒョウタンナガカメムシ	*Togo hemipterus*							○		
		クロスジヒゲナガカメムシ	*Pachygrontha similis*			○						
		Nysius 属の一種	*Nysius* sp.			○	○	○	○			
	ホソヘリカメムシ科	ヒメクモヘリカメムシ	*Paraplesius unicolor*						○			
	ヘリカメムシ科	キバラヘリカメムシ	*Plinachtus bicoloripes*		○							
		オオツマキヘリカメムシ	*Hygia lativentris*		○	○						

表1－2. 和泉葛城山山頂付近において2009年4月から12月にかけて確認された昆虫のリスト2
「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認、「鳴」印は鳴き声での確認を、それぞれ示している。

目	科	種	学名	4月 30日	5月 19日	6月 11日	7月 9日	8月 13日	9月 9日	10月 13日	11月 5日	12月 1日
カメムシ目	ヘリカメムシ科	ハリカメムシ	*Cletus rusticus*				○	○				
アミメカゲロウ目	ヒメカゲロウ科	ホソバヒメカゲロウ	*Micromus multipunctatus*				○	○				
		Hemerobius 属の一種	*Hemerobius* sp.								○	
コウチュウ目	オサムシ科	ヤマトオサムシ	*Carabus yamato*				○					
	ハネカクシ科	コアリガタハネカクシ	*Megalopaederus lewisi*		○	○	○	○		○	○	
		オオキバハネカクシ	*Oxyporus japonicus*				○					
	クワガタムシ科	ミヤマクワガタ	*Lucanus maculifermoratus*				○					
	コガネムシ科	マメコガネ	*Popillia japonica*				○					
		セマダラコガネ	*Blitopertha orientalis*					○				
		オオスジコガネ	*Mimela costata*				○					
		ヒラタハナムグリ	*Nipponovalgus angusticollis*			○						
		アオハナムグリ	*Eucetonia roelofsi*				○					
	タマムシ科	ヒメヒラタタマムシ	*Anthaxia proteus*				○					
	コメツキムシ科	アカハラクロコメツキ	*Ampedus hypogastricus*		○							
		シモフリコメツキ	*Actenicerus pruinosus*		○	○						
	ベニボタル科	クシヒゲベニボタル	*Macrolycus flabellatus*	○			○					
	ホタル科	オオオバボタル	*Lucidina accensa*				○					
	ジョウカイボン科	ウスチャジョウカイ	*Athemellus insulsus*	○								
		ジョウカイボン	*Athemus suturellus*			○						
		ニセキベリコバネジョウカイ	*Trypherus mutilatus*				○					
	ジョウカイモドキ科	ツマキアオジョウカイモドキ	*Malachius prolongatus*	○								
	ケシキスイ科	キイロセマルケシキスイ	*Cychramus dorsalis*							○		
	テントウダマシ科	セダカテントウダマシ	*Bolbomorphus gibbosus*	○		○						
	テントウムシ科	ナミテントウ	*Harmonia axyridis*					○				
		ナナホシテントウ	*Coccinella septempunctata*		○	○		○	○	○		
		シロホシテントウ	*Vibidia duodecimguttata*	○	○		○					
		ヨツボシテントウ	*Phymatosternus lewisii*						○			
		シロジュウシホシテントウ	*Calvia quatuordecimguttata*				○					
		ウスキホシテントウ	*Oenopia hirayamai*							○		
		コクロヒメテントウ	*Scymnus posticalis*		○							
		カメノコテントウ	*Aiolocaria hexaspilota*							○		
	ゴミムシダマシ科	キマワリ	*Plesiophthalmus nigrocyaneus*				○	○	○			
		クロナガキマワリ	*Strongylium niponicum*				○					
		クロホシテントウゴミムシダマシ	*Derispia maculipennis*				○					
	カミキリモドキ科	モモブトカミキリモドキ	*Oedemeronia lucidicollis*	○								
	カミキリムシ科	ナカジロサビカミキリ	*Pterolophia jugosa jugosa*		○							
		クロトラカミキリ	*Chlorophorus diadema inhirsutus*				○					
		シロオビゴマフカミキリ	*Falsomesosella gracilior*		○							
		ヒゲナガゴマフカミキリ	*Palimna liturata*						○			
	ハムシ科	ルリクビボソハムシ	*Lema crisicola*				○					
		ヤマイモハムシ	*Lema honorata*					○				
		バラルリツツハムシ	*Cryptocephalus approximatus*			○						
		フジハムシ	*Gonioctena rubripennis*	○								
		ドロノキハムシ	*Chrysomela populi*		○							
		ドウガネツヤハムシ	*Oomorphoides cupreatus*			○						
		アオバネサルハムシ	*Basilepta fulvipes*			○						
		ウスイロサルハムシ	*Basilepta pallidula*					○				
		ムナグロツヤハムシ	*Arthrotus niger*		○	○	○					
		ズグロキハムシ	*Gastrolinoides japonicus*		△							
		ニホンカミナリハムシ	*Altica nipponica*						○			
		リンゴコフキハムシ	*Lypesthes ater*			○	○					
		フタイロセマルトビハムシ	*Aphthonomorpha collaris*							○	○	
	オトシブミ科	カシルリオトシブミ	*Euops splendidus*				○					
		ヒメクロオトシブミ	*Apoderus erythrogaster*	○								
		イタヤハマキチョッキリ	*Byctiscus venustus*			○						
		ファウストハマキチョッキリ	*Byctiscus fausti*			○						
		ゴマダラオトシブミ	*Paroplapoderus pardalis*			揺籃						
	ゾウムシ科	キスジアシナガゾウムシ	*Mecysolobus flavosignatus*				○					
		トゲアシゾウムシ	*Anosimus decoratus*					○				
		リンゴコフキゾウムシ	*Phyllobius armatus*	○	○							
		ヒゲボソゾウムシ属の一種	*Phyllobius* sp.				○					
		ツツゾウムシ	*Carcilia strigicollis*					○				
		イチゴハナゾウムシ	*Anthonomus bisignifer*		○							
		ウスヒョウタンゾウムシ	*Dermatoxenus clathratus*		○							
		オオクチブトゾウムシ	*Macrocorynus variabilis*					○				
		シロコブゾウムシ	*Episomus turritus*				○					
	オサゾウムシ科	オオゾウムシ	*Sipalinus gigas*		○			○				
シリアゲムシ目	シリアゲムシ科	ヤマトシリアゲ	*Panorpa japonica*		○							
		ブライヤシリアゲ	*Panorpa pryeri*		○	○						
		スカシシリアゲモドキ	*Panorpodes paradoxus*		○							
ハエ目	ガガンボ科	ネグロクシヒゲガガンボ	*Ctenophora fumibasis*		○							
		マダラガガンボ	*Tipula coquilletti*			○						
		Tipula 属の一種	*Tipula* sp.						○			
		ヒメガガンボ亜科の一種	gen. et sp.	○								
	ケバエ科	クチナガトゲケバエ	*Dilophus fulviventris*								○	
	ユスリカ科	エリユスリカ属の一種	*Orthocladius* sp.								○	
	シギアブ科	シギアブ科の一種	gen. et sp.			○						
	ツリアブ科	ビロウドツリアブ	*Bombylius major*	○								
	アブ科	ウシアブ	*Tabanus trigonus*					○	○			
	ムシヒキアブ科	コムライシアブ	*Choerades komurai*				○					
		ハタケヤマヒゲボソムシヒキ	*Gyrpoctonus hatakeyamae*									○
		シオヤムシヒキ	*Promachus yesonicus*					○				
		ヒサマツムシヒキ	*Tolmerus hisamatsui*						○	○		
		マガリケムシヒキ	*Neoitamus angusticornis*			○	○					
		Neoitamus 属の一種	*Neoitamus* sp.		○	○						
	オドリバエ科	ネウスオドリバエ	*Empis flavobasalis*	○	○							
	アシナガバエ科	マダラアシナガバエ	*Psilopus nebulosus*					○	○			
	ハナアブ科	オオハナアブ	*Phytomia zonata*						○			

表1－3. 和泉葛城山山頂付近において2009年4月から12月にかけて確認された昆虫のリスト3
「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認、「鳴」印は鳴き声での確認を、それぞれ示している。

目	科	種	学名	4月30日	5月19日	6月11日	7月9日	8月13日	9月9日	10月13日	11月5日	12月1日
ハエ目	ハナアブ科	ナミハナアブ	*Eristalis tenax*				○		○			
		キゴシハナアブ	*Eristalinus quinquestriatus*						○			
		ホソヒラタアブ	*Episyrphus balteatus*		○							
		ホソヒメヒラタアブ	*Sphaerophoria macrogaster*					○		○		
		キアシマメヒラタアブ	*Paragus haemorrhous*	○								
	メバエ科	マダラメバエ	*Myopa buccata*	○								
	ミバエ科	ミスジミバエ	*Zeugodacus scutellatus*				○					
		アザミケブカミバエ	*Tephritis majuscula*					○		○		
	ベッコウバエ科	ベッコウバエ	*Dryomyza formosa*					○	○			
	シマバエ科	ヒラヤマシマバエ	*Homoneura hirayamae*							○		
		シマバエ科の一種	gen. et sp.						○			
	フンバエ科	ヒメフンバエ	*Scatophaga stercoraria*		○				○			
	ハナバエ科	ハナバエ科の一種	gen. et sp.					○				
	クロバエ科	ツマグロキンバエ	*Stomorhina obsoleta*						○			
		オオクロバエ	*Calliphora lata*							○		
	ヤドリバエ科	ヨコジマオオハリバエ	*Servilla amurensis*					○		○		
チョウ目	アゲハチョウ科	オナガアゲハ	*Papilio macilentus*					○				
	シロチョウ科	スジグロシロチョウ	*Pieris melete*			○	○	○	○			
		キチョウ	*Eurema hecabe hecabe*			○		○	○			
	タテハチョウ科	ミドリヒョウモン	*Argynnis paphia*			○			○			
		クロヒカゲ	*Lethe diana diana*		○			○				
		ヒカゲチョウ	*Lethe sicelis*						○			
		ジャノメチョウ	*Minois dryas*				○	○	○			
		コミスジ	*Neptis sappho intermedia*			○						
		アカタテハ	*Vanessa indica*							○		
		ルリタテハ	*Kaniska canace nojaponicum*							○		
		キタテハ	*Polygonia c-aureum*							○		
		サカハチチョウ	*Araschnia burejana*			○						
		アサギマダラ	*Parantica sita niphonica*							○		
		テングチョウ	*Libythea celtis celtoides*							○		
	シジミチョウ科	ルリシジミ	*Celastrina argiolus ladonides*				○					
		ヤマトシジミ	*Zizeeria maha argia*						○			
		ベニシジミ	*Lycaena phlaeas daimio*				○		○			
	セセリチョウ科	キマダラセセリ	*Potanthus flavum flavum*					○				
		イチモンジセセリ	*Parnara guttata guttata*					○				
		ダイミョウセセリ	*Daimio tethys*					○				
	ヒゲナガガ科	ウスベニヒゲナガ	*Nemophora staudingerella*			○						
	ハマキガ科	クロモンカバマダラハマキ	*Mictocommosis nigromaculata*		○							
	イラガ科	アカイラガ	*Phrixolepia sericea*			○						
	ツトガ科	オオキノメイガ	*Botyodes principalis*							△		
	シャクガ科	フタヤマエダシャク	*Rikiosatoa grisea grisea*							○		
		ナカオビアキナミシャク	*Nothoporinia mediolineata*									○
	アゲハモドキ科	キンモンガ	*Psychostrophila melanargia*			○			○			
	ドクガ科	ゴマフリドクガ	*Euproctis pulverea*						△		△	
		マイマイガ	*Lymantria dispar*			△						
		キドクガ	*Euproctis piperita*							△		
ハチ目	ミフシハバチ科	ウンモンチュウレンジ	*Arge jonasi*		○							
	ハバチ科	クロムネアオハバチ	*Tenthredo nigropicta*			○						
		オオコシアカハバチ	*Siobla ferox*			○						
		シマハバチ属の一種	*Pachyprotasis* sp.		○							
		セグロカブラハバチ	*Athalia infumata*			○						
		ウツギハバチ	*Asiemphytus deutziae*				○					
	タマバチ科	ナラハウラタマバチ	*Aphelinyx glanduliferae*							ゴール		
	ヒメバチ科	*Heteropelma* 属の一種	*Heteropelma* sp.			○						
		ヒメバチ族の一種	gen. et sp.					○				
		ガロアオナガバチ	*Triancyra galloisi*						○			
		Phygadeuontini の一種	gen. et sp.								○	
	ベッコウバチ科	フタスジベッコウ	*Eopompilus internalis*					○	○			
	ツチバチ科	キンケハラナガツチバチ	*Campsomeris prismatica*							○		
		キオビツチバチ	*Scolia oculata*						○			
	スズメバチ科	フタスジスズバチ	*Discoelius japonicus*						○			
		シダクロスズメバチ	*Vespula shidai*							○		
		キイロスズメバチ	*Vespa simillima xanthoptera*						○	○		
		オオスズメバチ	*Vespa mandarinia japonica*							○		
		キボシアシナガバチ	*Polistes mandarinus*	○			○					
		ホソアシナガバチ	*Parapolybia indica indica*						○			
	アリ科	キイロシリアゲアリ	*Crematogaster osakaensis*				○					
		ニセハリアリ	*Hypoponera sauteri*						○			
		ムネアカオオアリ	*Camponotus obscuripes*	○	○		○	○	○	○		
		クロオオアリ	*Camponotus japonicus*	○	○	○	○	○	○	○		
		ウメマツオオアリ	*Camponotus tokioensis*		○							
		クロヤマアリ	*Formica japonica*	○		○	○		○	○	○	
		クサアリモドキ	*Lasius spathepus*		○							
		トビイロケアリ	*Lasius japonicus*	○		○	○	○	○			
		アメイロアリ	*Paratrechina flavipes*					○	○	○		
		アミメアリ	*Pristomyrmex pungens*		○							
		ルリアリ	*Ochetellus itoi*					○				
		オオシワアリ	*Tetramorium bicarinatum*					○		○		
		ヤマトアシナガアリ	*Aphaenogaster japonica*		○		○					
	アナバチ科	ツチスガリ	*Cerceris hortivaga hortivaga*					○				
	ヒメハナバチ科	ヒメハナバチ属	*Andrena* spp.	○						○		
	ハキリバチ科	オオハキリバチ	*Chalicodoma sculpturalis*						○			
		スミスハキリバチ	*Megachile humilis*						○			
	コシブトハナバチ科	*Nomada* 属の一種	*Nomada* sp.		○							
	ミツバチ科	ニホンミツバチ	*Apis cerana*		○				○			
		コマルハナバチ	*Bombus ardens ardens*			○		○				
		トラマルハナバチ	*Bombus diversus diversus*				○		○	○		

表 1－1 の補足

・5 月 19 日、キスジゴキブリ幼虫、飼育して 5 月 25 日に 2 個体、5 月 26 日に 1 個体が羽化し、成虫で同定を行った。

表 1－2 の補足

・5 月 19 日、ズグロキハムシ幼虫、飼育して 5 月 30 日に多数羽化し、成虫で同定を行った。

・6 月 11 日、ゴマダラオトシブミ揺籃、五藤武史氏に飼育をしていただき、成虫で同定を行った。

表 1－3 の補足

・10 月 13 日、オオキノメイガ幼虫は、成虫に飼育して同定を行った。

謝辞

岡田恵太郎、山本直の各氏には、標本の同定およびデータ整理に協力していただいたので、ここに謝意を表する。

引用文献

岩崎 拓（2009） 和泉葛城山の昆虫（2008 年度調査）. 貝塚の自然 第 12 号：41-45.

大阪府（2000）「大阪府における保護上重要な野生生物 －大阪府レッドデータブックー」. 442pp.

黒子 浩（1997） 和泉葛城山頂上の蛾類（1）. 貝塚市自然環境調査報告書（1996 年度）：1-10.

黒子 浩（1998） 和泉葛城山頂上の蛾類（2）. 貝塚の自然 第 1 号：1-2.

黒子 浩（2000） 和泉葛城山頂上の蛾類（3）. 貝塚の自然 第 2 号：1-2.

黒子 浩（2001） 和泉葛城山山頂付近の蛾類構成と考察. 貝塚の自然 第 3 号：1-20.

黒子 浩（2002） 和泉葛城山山頂付近の蛾類の寄主植物の追加. 貝塚の自然 第 4 号：36.

松下宏幸（2009） 和泉葛城山での地上徘徊性昆虫調査報告 － ヒメキマダラウマ *Neotachycines furukawai* の大阪府初記録. 貝塚の自然 第 12 号：109-113.

保田淑郎・天満和久・天満奈央（2003） 和泉葛城山の蛾類相. 貝塚の自然 第 5 号：78-81.